

教授就任のご挨拶



微生物学教室教授就任にあたって

この度、櫻井純教授の後任として、2010年4月1日付けで、徳島文理大学薬学部微生物学教室の教授に着任いたしました。徳島文理大学で、教育、研究に携われますことは、大変光栄で、その責任の重さに身が引き締まる思いであります。当教室は、微生物学と免疫学の学部生教育にあたります。研究では、細菌が産生する病原因子の作用解析を分子レベルで進めて行きたいと考えております。

卒業後のあゆみ

私は、徳島文理大学薬学部を卒業後、同大学大学院薬学研究科を経て、助手、助教授、そして、准教授としてこれまで微生物教室の研究と教育に携わってまいりました。

研究では、ウエルシュ菌の産生する病原因子である毒素の研究を一貫して行ない、初期には、毒素の生体内での作用を検討し、作用部位を明らかにしました。さらに、毒素遺伝子の組換えや3次元構造の解析などから、毒素の構造と機能の関係を解明し、最近では、分子細胞生物学的な手法で毒素作用の解析を進めております。教育では、微生物学と免疫学を担当し、微生物学は、最近では、院内感染症や新興再興感染症など、新たな問題が出現し、免疫学は、日進月歩の分野で絶えず新規な発見が報告されています。これまで、新規な内容を講義に取り入れ、学生に理解しやすい講義を行って参りました。

今後の抱負

研究においては、微生物学教室の対象とすべき細菌感染症は現在も人類の保健上の重要な問題でありますので、その予防や治療に貢献したいと考えています。そのためには、病原因子の作用を細胞生物学や分子生物学の手法を駆使して分子レベルで解析、さらに、病原因子の構造と活性との関係を解明していきます。これらの研究により、病原因子をコントロールして細菌感染症の予防や治療、そして、感染制御に貢献できると考えております。

教育においては、学生に微生物学や免疫学の基礎をしっかり習得させ、これら分野の急速な変化や多様化した疾患に対応できるような最新の知識や技術を習熟させ、分野を超えた総合的な応用力を教授したいと思います。さらに、学生の研究指導から、論理的思考力、問題解決力、そして、プレゼンテーション力をつけさせたいと考えています。これらの教育により、6年制の薬剤師国家試験合格、及び、高度に多様化した医療現場で実力が発揮できる学生を育成することが私の目標です。

いずれにつきましても、皆様のお力添えなくしては、目標が達成できません。今後ともご指導、ご支援をよろしくお願い申し上げます。

平成22年4月1日

永浜 政博